



11月附幼だより

令和5年10月31日

芸術の秋、感動や発見を楽しく表現させたい

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

記録的な暑さが続いた夏がいつの間にか過ぎて、気持ちの良い季節を迎えています。この頃の朝夕は寒い日も続き、冬が訪れるのも、もうすぐかなと感じています。

園児たちは、夏の暑い時期に砂遊び、水遊び、色水遊びなど、戸外で水や自然物を使った遊びを中心にたっぷり遊んできました。これからの秋から冬の季節でも、天候や園庭の状況に合わせて外遊びは毎日続きますが、室内の遊びや活動が質量ともに活発になります。保育室をのぞくと、積み木やブロック、粘土で作った作品、遊んでいる途中、製作途中の作品を見ることができます。

子どもは見たり、経験したり、感じたり、想像したりしたことを遊びの中で、ごっこ遊び、何らかの形や作品にすることがよくあります。つまり、自分の心の中の思いや感じたことを形に表すのです。その例として、剣、鉄砲などの武器を作ることもそうですし、アニメのキャラクターがつけている衣装や物を作って遊ぶこともよくあります。“あこがれ”や“強い力を持ちたい”そんな思いの表れでしょうね。

表現の仕方は年齢や経験によってかなり違います。子ども自身が何らかの表現をしていることを、幼稚園の中で私たち教師が子どもの遊びや行動を見て「○○を表現しているのかな？」と感じることもあります。さらに年齢が上がって子どもが言葉で自分の思いや感動したことなどを説明できるということもあります。成長の段階に応じて様々な表現活動があるといえます。思ったことを“遊びの中で表現する”こと、“思ったことを話す”ことは子どもの成長にとって大切です。私たち大人は、その子なりの表現や遊びが楽しくできるように保育環境を整えたり、子どもの話を聞いたり、気持ちよく表現できるお手伝いをしてあげたりすることが大事なことを考えています。

これから、11月末の発表会に向けて、各クラスでどんな表現活動をするでしょうか？今年、特に、いままでの発表のやり方、内容にこだわらず、子ども自身が“表現することが楽しいこと”“やってみたいこと”をやりたいと考えています。どんな発表になるか、楽しみにしてください。

※下記の写真は各クラスの遊びの痕跡です。たまに保育室をのぞいてみてください。

